

月刊 サンエスウォッチング

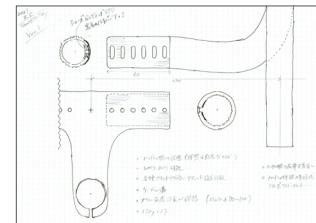
Vol.68-1

グランベース 一括りの操縦桿

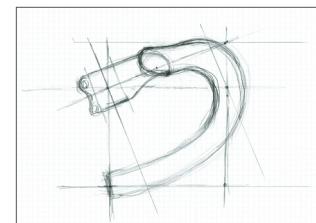
▶今から3年前の2021年、Vol.36で紹介したSTIレバーをフラット的に使える「リリーフバー」の商品化直後に、昨今流行りのカーボンシステムハンドル一体型（インテグレートモデル）を次のテーマとする機会に巡り会いました。それは、弊社のカーボン製品を20年前から作っていただいている協力工場が、当時（2021年）レースシーンでも世界で一番認知度の高かった最新一体製品の生産を請け負っていたことに起因しています。もちろん今でも世界的ブランドのトップレンジモデルを多数生産されています。ここで念押しとして一体型＝ケーブル類の内装システム云々は弊社の検討外であったことを承知ください。

▶兎に角、ステムとハンドルがカーボン製で一体になっていることで、いったいどんな走行感触=心地になるのか。その最新一体製品をいつものテストバイクに取り付けて乗り込みました。これが…結構違うんです。アルミステム+アルミハンドル・アルミステム+カーボンハンドル・カーボンシステム+アルミハンドル・カーボンシステム+カーボンハンドル、とは違うんです。ポジションはピッタリ出ていないにかかわらず、何と言ったら良いか、そこには正しく“一体感”があるのです。一括りのモノ。具体的にはハンドルを振り易いとか振動の入力が身体に優しいとかありますが、素直にこれは良いなと感じました。と共にイコールレースとかではなくて少し身近な存在にならないものかと開発してみようとなつたわけです。

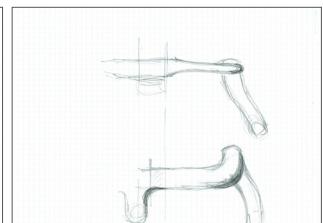
▶まず、ポジション問題を解決するべくサイズ可変式を検討。これは却下、安全性に難あり。もはやサイズの選択を細かく行えない点を補ってくれるぐらいに快適な調子の良い設計を狙うしかありません。



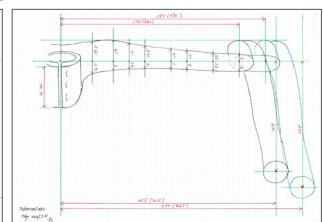
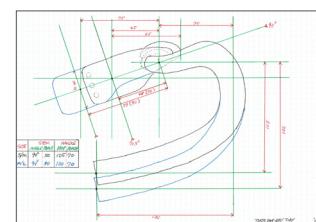
◆直ぐに却下となった3次元可変式のアイデア



▲最初期のデッサンですがこの時点から90度上がりに拘りがありました



▲▼具体的な数値化も手書きが基本にあります



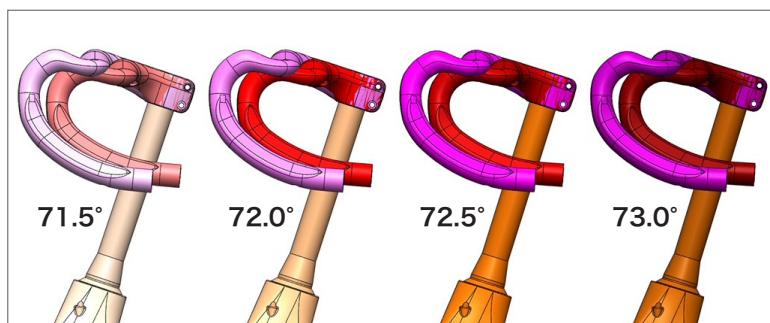
▲実際の最新ブラケットとも角度を確認します



▲初期の3Dプリンター模型



▲▲2本のケーブルを外でも中でも通せるように設計しています



▲フレームヘッド角71.5度から73度までの変化を2サイズを重ねて検証します



▲FZ=フィットゾーン部分のみの模型



▲これまでのFZから更に細部を追求した曲線を作り出しました

次ページへ続く ➔